

佐賀大学農学部 学位授与の方針

学部らなびに各学科の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

応用生物科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然などに関する授業科目を有機的に関連付けて履修・修得し、文化的素養を身に付けている。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、科学的合理性や科学的論理に基づいて判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 微生物から植物や動物など、農学分野で扱う生物の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 微生物から植物や動物など、農学分野で扱う生物に関して深い学識や基礎的技術を持ち、課題の発見や解決に向けての思考力および行動力を身に付けている。
- (3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために他者の立場で物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

生物環境科学科

1. 基礎的な知識と技能

- (1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能
様々な学問分野（自然、文化、社会）における基本概念や思考方法を理解し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。
- (2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能
 - ① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解し、自らの意思を表現し、他者の理解を得ることができる。
 - ② 英語を用いて知識を修得し、グローバル社会に向けて自らの考えを発信することができる。
 - ③ 情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理することができる。

(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能

専門分野について、基本概念や原理を理解して説明することができ、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

2. 課題発見・解決能力

(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析することができる。

(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の知識と技法を応用することができる。

(3) 課題発見につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動ができ、また、他者に方向性を示すことができる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考えることができ、また自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力

地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。

(3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観によって社会生活で守るべき規範を遵守することができ、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

生命機能科学科

1. 基礎的な知識と技能

(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する授業科目を履修・修得し、現代社会の諸問題を自らの力で合理的かつ論理的に推論し判断することができる。

(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析し、適切に活用・管理することができる。

(3) 農学分野（生命科学技术）の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

(1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して現代的な諸問題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。

(2) 科学的思考力を備え、生命科学技术の応用を通して、食と健康の分野において社会に貢献できる。

(3) 演習や卒業研究などを通して人間理解に立った良い人間関係の形成、研究チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) 歴史や文化・伝統などの違いを踏まえて、平和な社会実現のために、自己と同時に他者の立場に立って物事を考え、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。
- (2) 地域や社会の様々な問題に関心を持ち、地域や社会における自らの役割を主体的に選択・決定し、課題に向けて、主体的に学び行動することができる。
- (3) 4年間の教育課程を通して高い倫理観と豊かな人間性を育み、社会生活で守るべき規範を順守し、社会の健全な維持・発展に主体的に寄与する姿勢を身に付けている。

佐賀大学農学部 教育課程編成・実施の方針

1. 教育課程の編成

学位授与の方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

応用生物科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関する科目を配置し、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門科目を1年次から配置するとともに、実験科目を2年時から配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門科目を1年次から配置するとともに、実験科目を2年時から、演習科目を3年時から、卒業研究を4年時に配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の習得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する実験・演習科目及び卒業研究を配置する。

応用生物科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、インターフェース科目を2年次から配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、インターフェース科目およびインターンシップを配置する。学部専門科目として、問題解決型学習方式で実施する各研究分野での実験を配置する。

各研究室への配属は3年次前学期に行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を習得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（各研究分野実験、卒業研究など）を配置する。

生物環境科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報リテラシー科目、大学入門科目、基本教養科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年時から開講し、基礎的な汎用技能を修得

した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習するために、1年前期に専門基礎科目を、1年次から2年次に農学基礎科目を選択必修科目として配置する。1年後期は学科を構成する3コースの専門領域を理解するために3科目の専門必修を配置する。2年前期からは、各コースが指定する履修モデルに応じて専門科目を配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に身に付けるために専門基礎科目（基礎数学、物理学、生物学、化学）と農学基礎科目（作物生産学、動物資源開発学、生物化学、土壌学、食料流通経済学）を1・2年次に、科学英語を3年後期に配置する。また、専門の情報リテラシー科目として1年後期に生産情報処理学Ⅰを配置する。

農学分野における課題発見と解決能力の修得のために、情報収集・分析力、研究技能と研究マインド、リーダーシップを発揮する指導力などの養成に関する講義科目、実験・演習科目及び卒業研究を専門科目として配置する。

生物環境科学に関する専門的な知識、技術を修得し、農学に関わる業務を遂行する職業人としての実践能力を養うために、専門科目（必修および選択）と実験科目、演習科目を1年次後学期から4年次まで体系的に配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

社会との関わりを理解し、持続的な自己実現を図るための能力、習慣を身に付けるために、学部専門科目として、問題解決型学習方式で実施する演習やインターンシップを配置する。

各コースへの配置は2年次前学期に行われ、さらに2年次後学期（資源循環生産学コース）あるいは3年次前学期（生物環境保全学コース、地域社会開発学コース）には、コース内において、各教育研究分野への配属が行われ、卒業研究修了まで専門的な研究環境を長期間経験することにより、学士（農学）として十分な専門知識と先端技術を修得するとともに、研究チームの一員としての協調性、高い倫理観と豊かな人間性を養う専門科目（卒業研究など）を配置する。

生命機能科学科

効果的な学習成果をあげるために、教養教育科目と専門教育科目を有機的かつ体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(1) 基礎的な知識と技能

教養教育において、文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（英語、情報処理科目）を、必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。

教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、農学分野での専門課程における応用・発展的な学習に繋げる。

専門教育科目においても言語・情報・科学リテラシーに関して、農学分野での応用、発展が可能な知識と専門技術の修得を図る。

基礎化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すため、1年次に専門基礎科目3科目、専門科目4科目を必修科目、2年前期に専門科目6科目を必修科目として配置する。

また、農学分野の基礎的な知識・技術を体系的に学習するために、農学基礎科目を1年次から2年次に選択必修科目として配置する。さらに、実験を通じて専門的知識・技術を修得するために、必修の実験科目を2年次後学期から3年次前学期に連続的に配置する。

(2) 課題発見・解決能力

教養教育において、さまざまな課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、

初年次の必修として配置する（大学入門科目Ⅰ）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

生物機能や生物資源を中心とする生命化学を体系的に学習し、これらを理解し応用する能力の育成を目指すために必要な基礎から応用に至る化学的な教養及び実践的な研究能力を身に付けることを目標として、基礎からより専門性の高い科目を年次進行で配置したカリキュラムを実施する。

修得した知識、技能を活用し、直面する諸問題を正確に解析する能力と自発的に方策を立て問題解決を図る実践应用能力を養うために、4年次に卒業研究を含む専門2科目を必修科目として配置し、演習を選択科目として配置する。

(3) 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を選択必修として幅広く履修できるように配慮する（インターフェース科目）。

様々な問題に積極的に関心を持ち調査する能力や、自主的・自立的に学習する習慣を身に付けるために、専門科目としてインターンシップ科目（選択）を配置する。

専門的な研究環境を長期間経験する目的から3年次後学期に研究室分属を行い、午後の時間は専門外書講読、引き継ぎ実験を行い、研究チームの一員としての協調性、倫理感と豊かな人間性を養う。

（別紙）生命機能科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・演習・実験実習等を担当するように担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に主担当教員を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 学部に教育担当副学部長（教育委員長）を、各学科に教育委員を置き、教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と、演習や実験実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 全ての学生にチューター（指導教員）を配置し、GPAを利用した、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。
- (3) 各教員は、全ての授業科目について学生による授業評価を実施し、その結果を踏まえて授業改善報告書を作成する。また、教育方法の改善のためのFDを推進し、各教員はFD活動に積極的に参加する。
- (4) 各教員は実習科目や演習科目において、可能な限りTAを採用し、学部教育の改善を図り、各学期末にはTA報告書を作成する。
- (5) 各学科・コースは大学入門科目やインターンシップなどの授業科目において、可能な限りキャリア教育の充実を図る。
- (6) 各学科・コースはeラーニングやLMSなどの新しい教育方法を積極的に導入して、教育方法の改善を図る。

4. 成績の評価

- (1) 各授業科目の学習内容、到達目標、成績評価の方法・基準をオンラインシラバスにより学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 各学科・コースは定められた基準によって学修到達度を評価し、コース分属や分野分属、卒業研究履修認定を行う。

表 応用生物科学科における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授業科目名							
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	(1) 基本教養科目							
		情報基礎概論演習				生物情報処理演習		
	英語 A	英語 B	英語 C	英語 D	科学英語	生物科学英語		
1	作物生産学	動物資源開発学	土壌学	食料流通経済学				
	生物学	化学	生物化学	フィールド科学 基礎実習Ⅲ				
		植物生理学	植物育種学	動物繁殖生理学		熱帯有用植物学		
1		遺伝学	線虫学	昆虫学	植物分子遺伝学	生物情報処理演習	植物栄養学	
		応用動物昆虫学	システム生態学	野菜園芸学	動物生体生理学		飼料資源学	
		熱帯農業論	動物行動生態学	果樹園芸学	動物遺伝育種学			
1		生物統計学	植物病理学Ⅰ	植物病原学				
			熱帯作物改良学					
			花卉園芸学					
2	(1) 大学入門科目					生物情報処理演習		
			インターフェース科目					
			生物学実験	応用生物学実験		生物情報処理演習		卒業研究
2			応用化学実験		各研究分野実験			
	(3) 大学入門科目		生物学実験	応用生物学実験		生物情報処理演習		卒業研究
			応用化学実験		各研究分野実験			
3	(1) 大学入門科目							
			インターフェース科目					
			生物学実験	応用生物学実験		生物情報処理演習		卒業研究
3			応用化学実験		各研究分野実験			
	(2) 大学入門科目						農業演習Ⅰ	
							農業演習Ⅱ	
3			インターフェース科目					
	(3) 農学基礎科目				各研究分野実験			卒業研究
			インターフェース科目					
標準取得 単位数	20~	21~	20~	20~	19~	15~	4~	4~

表 生物環境科学科（生物環境保全学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授業科目名							
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	(1)	基本教養科目						
	(2)	英語A	英語B	英語C	英語D	英書講読	科学英語	
	(3)	作物生産学 生物学 物理学	動物資源開発学 化学 生物化学 基礎数学	土壌学	食料流通経済学			卒業研究
2	(1)	大学入門科目	生産情報処理学Ⅰ		生物統計学	英書講読	科学英語	
	(2)		生物環境保全学概説 資源循環生産学概説 地域社会開発学概説	環境化学 水環境学 環境基礎解析学 植物生態生理学 植物栄養学	環境汚染化学 地球環境学 土壌環境科学 応用力学 気象水文学	地盤環境学 環境水理学Ⅰ・同演習Ⅰ 土壌微生物学 システム生態学 農村環境計画学	現代環境学 環境水理学Ⅱ・同演習Ⅱ 地盤環境学Ⅱ 環境浄化生物学 干潟環境学	
	(3)	大学入門科目		実験水気圏環境学	実験生物環境保全学	測地学Ⅰ・同演習Ⅰ	測地学Ⅱ・同演習Ⅱ	卒業研究
3	(1)	インターフェース科目						
	(2)					インターンシップⅠ	生物環境保全学演習	
	(3)	インターフェース科目						
標準取得単位数	20	23	20～	18～	19～	18～	6	4

表 生物環境科学科（資源循環生産学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授 業 科 目 名							
	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	基本教養科目							
	英語A	英語B	英語C	英語D	科学英語			
	情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ							
2	作物生産学 生物学 物理学	動物資源開発学 生産情報処理学Ⅰ	土壌学 生産情報処理学Ⅱ フィールド科学 基礎実習Ⅰ	食料流通経済学 フィールド科学 基礎実習Ⅱ	生物物理化学 微生物学 植物分子遺伝学 生化学	物理化学 植物生理学 分子生物学	生物有機化学	遺伝子工学 分子細胞生物学
	化学 基礎数学				遺伝学 有機化学			
					エネルギー利用学 農業生産機械学	設計・製図学 CAD利用学		
3	インターフェース科目							
	大学入門科目		地球環境科学 環境保全型農業論 環境汚染科学	環境基礎解析学	生物統計学 分析化学			
					生産情報管理学			
4	インターフェース科目							
	大学入門科目	生物環境 保全学概説 資源循環 生産学概説 地域社会 開発学概説	栽培環境制御学 植物遺伝資源学 植物生態生理学	農業食品流通貯蔵学 応用動物昆虫学 経営資源管理学 栄養化学 果樹生産生理学	農業資源物質工学 土壌微生物学 動物生産管理学 生産エンジニアリング 雑草学 飼料資源学 植物病理学Ⅰ 食料流通貯蔵学 環境水科学Ⅰ 動物生態生理学 応用微生物学 応用力学 植物育種学 動物遺伝育種学 園芸植物繁殖学	食用作物学 環境浄化生物学 食品化学 植物病原学 農業政策論 蔬菜園芸学 果樹園芸学 生物資源化学 農産物利用学 食品衛生学	卒業研究	
5	インターフェース科目							
	大学入門科目	生物科学実験実習	環境科学演習	作物学実験実習Ⅰ 資源循環生物学 実験実習Ⅰ 資源循環フィールド科学 実習Ⅰ 植物遺伝資源学実験 実習Ⅰ フィールド科学総合実習 動物資源開発学実験Ⅰ	作物学実験実習Ⅱ 園芸工学実験実習Ⅱ 資源循環生物学 実験実習Ⅱ 資源循環フィールド科学 実習Ⅱ 植物遺伝資源学実験実習Ⅱ 遺伝資源フィールド科学 実習 動物資源開発学実験Ⅱ	作物学演習Ⅰ 園芸工学演習Ⅰ 資源循環生物学 演習Ⅰ 資源循環フィールド 科学演習Ⅰ 植物遺伝資源学演習Ⅰ	作物学演習Ⅱ 園芸工学演習Ⅱ 資源循環生物学 演習Ⅱ 資源循環フィールド 科学演習Ⅱ 植物遺伝資源学演習Ⅱ	
6	インターフェース科目							
				インターンシップⅠ・Ⅱ				
							卒業研究	
7	インターフェース科目							
標準取得 単位数	20	23	20	20	20	20	4~	4~

表 生物環境科学科（地域社会開発学コース）における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与	授 業 科 目 名							
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	基本教養科目							
	大学入門科目							
	英語A	英語B	英語C	英語D		科学英語		
2	情報基礎概論 情報基礎演習Ⅰ							
	作物生産学 生物学 物理学	動物資源開発学 生物化学 生産情報処理学Ⅰ	土壌学 フィールドワーク 基礎実習Ⅰ	食料流通経済学				
		地域社会 開発学概説	地域資源論 人類生態学 地域ビジネス開発論 農業政策論 国際環境農業論	観光人類学 環境地理学 人間開発学 環境社会学 経営資源管理学	アジア栄養生態学 生態人類学 食料市場論 農業会計学			
3	大学入門科目		インターフェース科目					
		地域社会 開発学概説 生物環境 保全学概説 資源循環 生産学概説	システム生態学 環境基礎解析学 栽培環境制御学 植物病理学Ⅰ エネルギー利用学 生産情報処理学Ⅱ	環境保全型農業論 土壌環境科学 農村環境計画学 土壌微生物学	社会統計学	農村開発学 地域社会論 国際健康開発論 半島・島嶼産業論 農業技術経営学入門 アジア比較農業論		
		生物統計学 熱帯農業論		農村環境計画学 土壌微生物学 農業資源物質工学	食用作物学 熱帯有用作物学			
4			フィールドワーク 基礎演習		地域資源学演習Ⅰ 人類生態学演習Ⅰ 島嶼社会経済学演習Ⅰ アジアフィールドワーク	地域資源学演習Ⅱ 人類生態学演習Ⅱ 島嶼社会経済学演習Ⅱ 地域ビジネス開発学演習Ⅰ	地域ビジネス開発学 演習Ⅱ	卒業研究
			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク			卒業研究
			インターフェース科目					
5			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク			卒業研究
			インターフェース科目					
					インターンシップⅠ・Ⅱ			卒業研究
6			フィールドワーク 基礎演習		アジアフィールドワーク			卒業研究
			インターフェース科目					
								卒業研究
標準取得 単位数	20	23	20	20	20	20	4~	4~

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（生命機能科学科）

学位授与	授 業 科 目 名							
	1年・前期	1年・後期	2年・前期	2年・後期	3年・前期	3年・後期	4年・前期	4年・後期
1	基本教養科目							
	情報基礎概論 情報基礎演習 I			化学実験 I 化学実験 II	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎実験 演習	卒業研究
	英語 A 科学英語	英語 B	英語 C	英語 D			専門外書講読	
2	作物生産学 基礎数学 物理学 化学 生物学 科学英語	動物資源開発学 物理化学 有機化学 分析化学 生物化学	土壌学 生物有機化学 生化学 生物物理化学 微生物学 生命化学概説 食糧科学概説	食糧流通経済学 食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学 化学実験 I				
				化学実験 II	微生物学実験 生化学実験			
2	インターフェース科目							
	大学入門科目 I			食品衛生学 栄養化学 食品化学 分子生物学	食糧安全学 食品工学 食品機能化学 応用微生物学 農産物利用学 食糧流通貯蔵学	海洋生物資源化学 生物資源化学 遺伝子工学 分子細胞生物学 基礎放射線科学	生物学基礎 実験演習	卒業研究
				化学実験 I 化学実験 II	微生物学実験 生化学実験			
3	インターフェース科目							
	大学入門科目			化学実験 I 化学実験 II	微生物学実験 生化学実験		生物学基礎 実験演習	卒業研究
3	インターフェース科目							
	インターフェース科目							
					インターンシップ I		演習	卒業研究
3	インターフェース科目							
						専門外書講読	演習	卒業研究
標準取得単位数	22	23	22	18	21	16	7	4